

関東・甲信越ブロック

< 2日目 >

8:30～9:00	(30)	受付
9:00～10:50	(110)	グループ討議 子どもに対する交通安全活動における課題と対応 (子どもへの交通安全の意識付け) 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 ボランティア活動中の事故防止
10:50～11:00	(10)	休憩
11:00～11:40	(40)	討議結果発表(4グループ)・質疑応答
11:40～11:55	(15)	講評(コーディネーター)
11:55～12:00	(5)	主催者からの連絡事項 : 内閣府
12:00		閉会

2. 講義等の記録

【1日目】

講演

「子どもの交通行動と発達の関係」

大阪国際大学 人間科学部 教授 山口 直範

65ページの東北ブロックでの講演録参照

講演

「高齢者（運転者も含めた）に対する交通安全の動機づけ」

千葉大学 名誉教授 鈴木 春男

19ページの北海道ブロックでの講演録参照

【2日目】

グループ討議の結果

グループ名	グループ - 1 子どもに対する交通安全活動における課題と対応 (子どもへの交通安全の意識付け)
討議テーマ	交通安全に関する意識の差について(県・市・町村、地域の温度差) 保護者、大人に対する交通安全教育について、どのように次世代につなぐか。未来の子ども達を守るために
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守り(旗振り指導含む)、危険箇所の確認、安全指導 ・園や学校に出向き交通安全啓発、交流、アンケートの実施 ・地域活動に密着しての交通安全啓発 ケーブルテレビを使って広報 踊りなどを通しての啓発
課題の抽出 対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、市町村、警察、安協、地域、母の会との連携 特に市町村に交通安全の専門の課を設置し、常に連携をとって活動することで事故防止につなげる。 ・高齢化のため交通安全リーダーの継承が困難になってきているので環境づくりの一環として活動のプレゼンの継続やボランティアの楽しさを伝える声掛けをする。 ・定年制を設け人材をスカウトにより確保する ・千葉県の交通事故ワースト1を打開するため各団体と連携し、事故の現状を検証し即、周知させる(特に高齢者)

グループ名	グループ - 2 子どもに対する交通安全活動における課題と対応 (子どもへの交通安全の意識付け)
討議テーマ	交通安全指導における活動
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校の見守り ・交通安全の啓発活動 その他(交通安全活動・キャンペーン等)
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・人員の確保、後継者の確保 ・地域のつながり 台風の時、下校児童が青信号で横断歩道を横断中にもかかわらず、車が信号無視し危険であった
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体や組織との情報交換 ・年に一度PR ・PTAに交通安全教室に参加を呼びかけ、活動を周知し人員を増やす

グループ名	グループ 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への呼びかけ ・運転免許証の自主返納
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の自転車教室を実施 ・敬老会で警察から免許返納の話をしてもらう ・歩行者子どもは右からの車、高齢者は左からの車で事故。反射材をつけてもらう ・高齢運転者の免許返納(保障:自宅近くのみ、晴天のみ、同乗者)
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用者が多いため年齢関係なく自転車無料点検(修理はなし) ・高齢者先着 50 名に無料で交通安全祈願(川崎大師) ・キャンペーンで必ず企業が啓発物を配布 ・老人クラブの会合に出向き短時間で出前講習(啓発物も配布) ・免許返納した 80 歳以上の方にタクシー券
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・市と一体になり連携するのが重要 ・行政のサポート(情報も得る) <ul style="list-style-type: none"> ふれあい会食会、交通安全絵のコンクール ・家族の協力 ・免許自主返納を勧めるのも難しい <ul style="list-style-type: none"> 事例:おばあちゃんが「あなたの足になりますよ」の一言でおじいちゃんが免許返納した ・交通安全指導は子どもの時からの積み重ねが重要(交通安全は家庭から)

グループ名	グループ ボランティア活動中の事故防止
討議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動中の事故防止 ・ボランティアとは？
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己責任のあり方が理解されていない ・高齢者の見守り隊のあり方と必要性 ・訪問見守り(安否確認を含めた交通指導) ・児童、学生、若者に対するボランティアのレクチャー ・場面に応じたボランティア対応のシステム方法について ・潜在意識の中の活動中のあり方を高める
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に対する知識、認識不足 ・ボランティアをする側、受ける側の理解度の格差 ・責任所在の確認、ボランティア保険、自動車保険、イベント保険のあり方と活用方法を知る。 ・年齢や地域により問題点異なる。時代の変化に伴う考え方、活動、ルールの理解度 ・若い時よりボランティアに慣れ、スムーズに参加できる教育システムの構築
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動中の事故に対するノウハウのレクチャー ・ボランティアメンバー内のコミュニケーションのあり方 ・時代に即応したボランティアの方法 ・年齢枠を超えた話し合い、研修機会の設定 ・各種ボランティア保険の内容確認 ・「ボランティアとは何か」の原点に戻り継続して伝えることの大事さ ・地域性を重視した順応性のある活動を展開していくことが大切

それではただ今のグループ討議の発表のコメントも含めて講評に入らせていただきます。昨日の大阪国際大学の山口先生の講義では「子どもの交通行動と発達の関係」というテーマでした。人間が年をとっていく、加齢とともに心も体も行動もどんどん変化していく、そういう変化に応じて交通安全ということもその対策を考えていかななくてはいけないのではないか。発達心理学の観点から大変良いお話をさせていただきました。

また、皆さんには昨日のグループ交流から本日のグループ討議、さらに今の討議結果の報告と、大変熱心に報告いただき大変感銘を受けました。

第2グループのテーマが「高齢者」のグループでは子ども達は右から来た車にはねられるケースが多いけれど、お年寄りはこちらかというところ左から来た車にはねられるケースが多いという発表でしたね。実はこれは統計上もはっきり出ているのです。どうしてかというところ、私は以前、内閣府のプロジェクトでなぜ高齢者は左から来た車にはねられてしまうのかを題材にして検討委員会をつくり、私が委員長になって調査いたしました。

子ども達が右から来た車にはねられるケースが多い理由は典型的な飛び出しだからです。結局、飛び出しが原因ではねられてしまうので、ドライバーから見ると左から飛び出した子どもをはねてしまう。ところが、お年寄りが横断していく時に、左から来た車にはねられてしまうケースが多い。どうしてなのだろう。この図のようにドライバーからお年寄りはよく見えるわけです。お年寄りからも車はよく見えるわけです。それなのに、子どもが飛び出しではねられるのはわかるけれども、お年寄りは何で右から来た車ではなくて左から来た車にはねられるのだろう。原因は昨日、私がお話しした「意識と行動のミスマッチ」なのです。お年寄りは道路を横断する時、若い時のつもりで5秒で渡れると思っている。ところが、実際の行動の上では10秒かかってしまう。この歩く距離が短かければ、この差が短く出るのでそんなに大きな差は出ないわけです。ところが、左から来た車の場合、ここの歩く距離が長い。この5秒と10秒の差が大変大きい形で出てきてしまうのです。ですからお年寄りは5秒で渡れると思っていたが、実は10秒かかってしまい横断中ちょうど7秒とか8秒の時に車と事故を起こしてしまうのです。

車のドライバーは、この遠い距離からはまだお年寄りかどうかは判断できませんし、当然渡れるだろうという思い込みもあります。ですから横断距離が長いと、結局、左側から来た車にはねられるというケースが多くなってしまっているのではないかとというのが当時のプロジェクトの多くの研究者の人たちの意見でした。ですから、子どもたちに指導するケースと、お年寄りに指導するケースでは随分違うので、相手によって指導内容は変えていかななくてはならないと思っています。

さて、この二日間、皆さんは講義やグループ討議でいろいろな話を聞くことができましたね。そして、皆さんそれぞれ非常に大事なポイントを共有し地域に帰られて、さらに地域の方々とともに広く共有していくということができると思います。

先ほどの第1グループの討議結果の報告の中で非常に大事な報告があったと感じました。それは、学校や自治体、母の会か地域のいろいろな団体が連携することが大事ではないかということ非常に強調して報告いただきました。この連携という問題について最後に私の感想を申し上げたいと思います。

実はその報告を伺いながら、私が若いころ「ジンメル」という社会学者の本を翻訳した頃を思い出しました。当時、私の恩師の尾高邦雄先生からドイツの社会学者ジンメルの「社会文化論」を出版社より「世界の名著」というシリーズで出版するので私を含め二人で翻訳して欲しいと依頼されました。そのジンメルが大変おもしろいことを言っているのです。グループ、これはどんなグループでもいいのです。そのグループをまとめるためには2つ条件が

必要だということです。1つ目は、そのグループの人がみな同じ考えを持ち、同じ行動ができること。つまり共通している部分があるグループの中に非常に数多く存在していることが大変大事なポイントなのです。そうすれば、みんなが仲よくいくと思いますよね。これをジンメルは集団分化と呼んでいるのです。2つ目はお互いが異質であること。そのグループがうまくいくには、みんなが同じ考え、同じ立場、同じ知識を持っていることが大事ですが、それだけではうまくいきません。グループ・集団というのは、お互いに違っている。AさんとBさんは違っているということが集団で非常にまとまりをよくするための大事なポイントなのです。私が最初に聞いた時、ちょっとこれは意外でした。みんなが別の考え方、別の立場でいたら集団はうまくいかないのではないかと。共通項の方はよく理解できますが異質項のほうはあまり理解できませんでした。しかしジンメルは共通項も大事だけれども異質項も大事だということを言っているのです。よく考えてみますと例えば夫婦ですね。夫婦というのはお互いに意気投合して共通項がたくさんあって結婚するわけです。でも夫婦は基本的に男と女です。男と女は全く異質ですよ。異なる人間がそれぞれ役割を持ってお互いに分担していくからこそ、そこに相互補完ができるのです。先ほどのボランティアについての報告で、お年寄りのボランティアと若いボランティアと分けて検討していただきましたね。やはり若いボランティアには知識がまだないという欠点がある。しかし体力はあります。お年寄りのボランティアは知識があるけれど体力がないですね。そこで、お年寄りのボランティアの知識と若いボランティアの体力で相互が補って行く。夫婦の間でも夫と妻の役割というのは違っていますね。違っているからこそお互いに役割を分担して相互に補完できる。だからグループの中で考えると、この集団を構成している人がみな同じ考えで、同じ活動ができることがうまくいく大事なことだと思うのですが、実は一人一人が違って、お互いに役割を分担し合うことで先ほどの第1グループの方報告した連携が大事となるのです。

P T Aの果たす役割、学校で交通安全教育をしていく役割、母の会が担う役割、みんなそれぞれが違う役割を持っています。そこでお互いが連携する、相互に補完し合うことができ初めてうまくいくのではないかと、そういった内容のご報告を連携という言葉であらわしていただいて、すごくよかったなと思っています。

実は我々の会話もそうです。私が仮にAだとします。皆さんのお一人一人がBだとします。皆さんと私が会話をするというのはAさんの持っている情報、それからBさんの持っている情報を交換していくのです。情報を交換していくとお互いに同じ情報をたくさん持つようになってくる。この同じ情報をたくさん持つということが実は非常に大事なポイントなのです。お互いが持っている同じ情報を交換しても全然意味がありません。情報交換というのは「お互いに共通している共通項の上に立って、違う情報をお互いに提供していく」。これが情報交換なのです。だから、情報交換が非常にうまくいくのは、AさんとBさんの間に情報の共有をしているところもたくさんあって、同時に異質な部分もたくさんある。お互いに持っている材料が違う。先ほど誰かが他県のいろいろな話が聞けたから今回参加して良かった感想がありました。他県では随分いろいろなことをやっている。これは異質な部分を交換して非常に成果があったわけです。

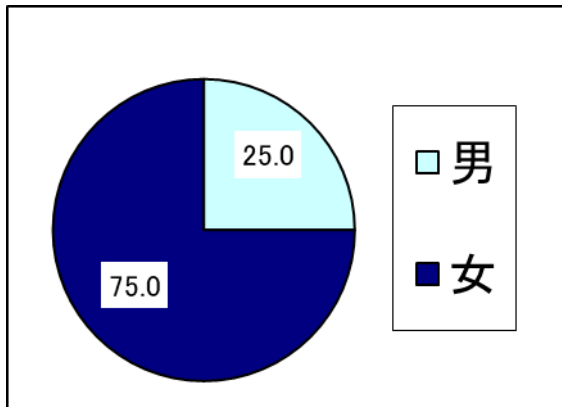
そういうことで、このような個人分化、異質なものがたくさんないと交換できないのです。例えば、2人仲のいいAさん、Bさんが情報交換をどんどんしていきます。最初はうまくいきました。共通項も異質項もたくさんありました。ところが、情報交換をしていくうちに共通項がどんどん増え、やがて交換すべき異質項がなくなってきてしまった。この状態がもし夫婦間で例えるなら倦怠期といいますね。倦怠期はまさにこういう状態です。では倦怠期にならないためにはどうしたらいいか。共通項が増える以上に異質項をどんどん増やしていく。お互いにどんどん新しいことを導入していく。そういう関係がこれからの地域のそれぞれの団体の「凝集性」といいますが、人間関係を固めていく上に大変大事です。地域の中でも、

例えば母の会が演ずる役割とPTAあるいは学校が交通安全教育について演ずる役割はやはり違う部分があって、その違う部分をお互いに補い合うことが非常に大事なのです。

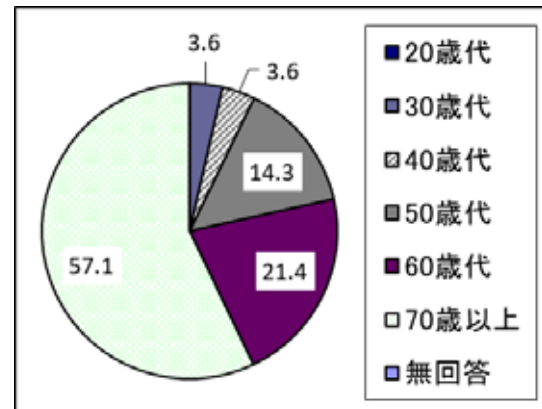
これは地域でもそうだし、皆さんのそれぞれの団体の中でもそうだと思います。団体の中の一人一人の個性がやはり生かされるような、そして、相互に補完できるような、そういうことがこれから非常に重要なポイントとなってくると思います。時間がまいりました。以上が私のまとめとさせていただきます。どうもありがとうございました。

3. アンケート集計結果

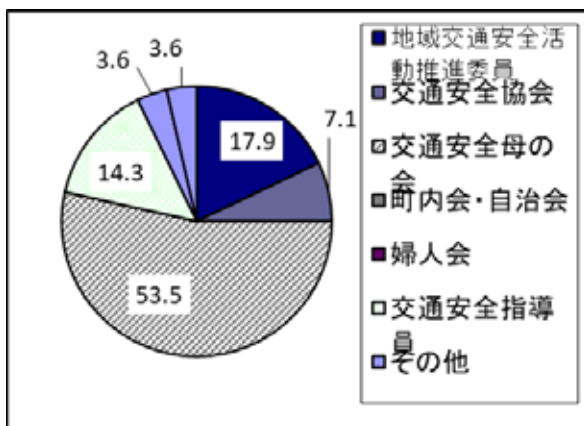
1. 性別



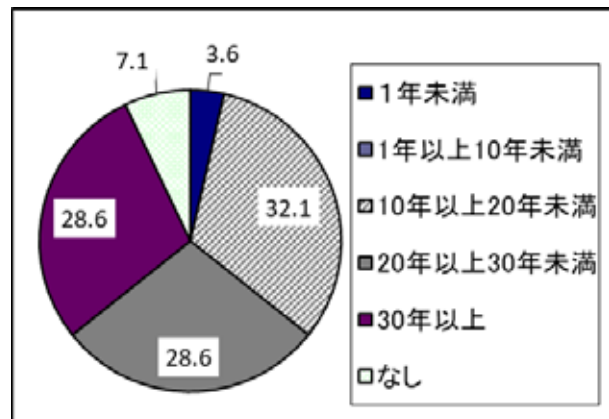
2. 年齢



3. 所属団体

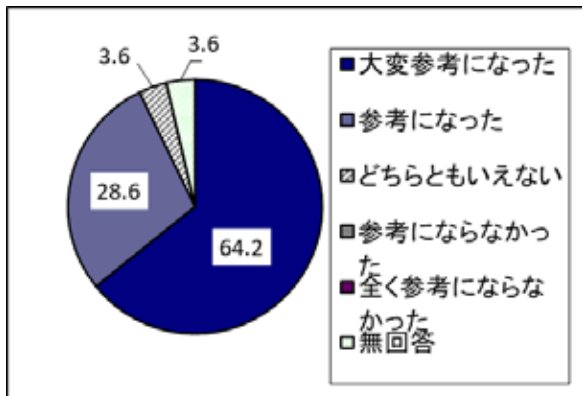


4. 活動年数

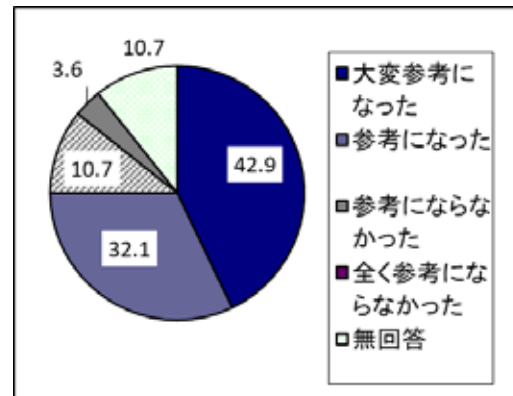


5. 評価

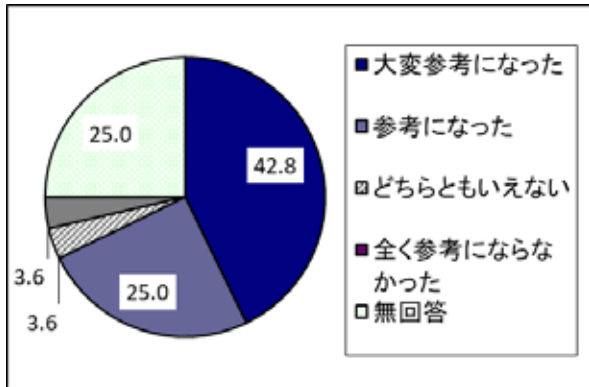
[講演 講師：山口 直範 先生]



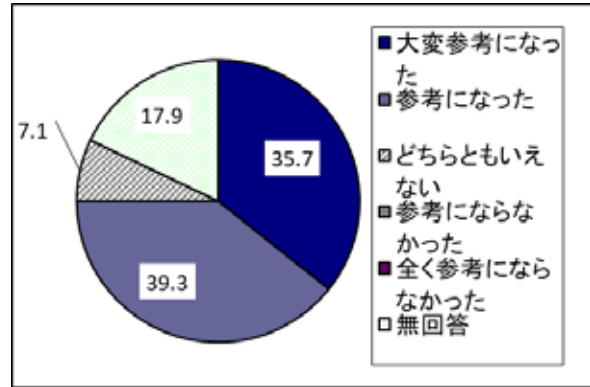
[講演 講師：鈴木 春男 先生]



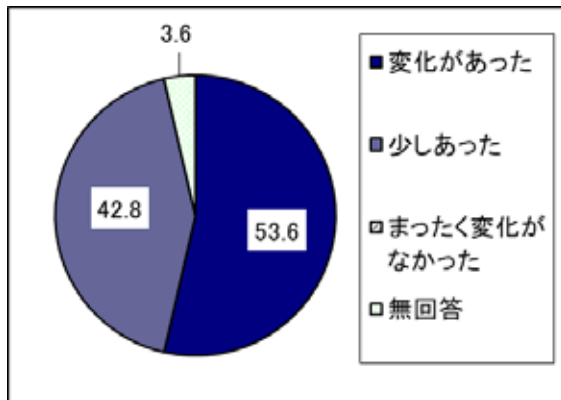
6. グループ討議



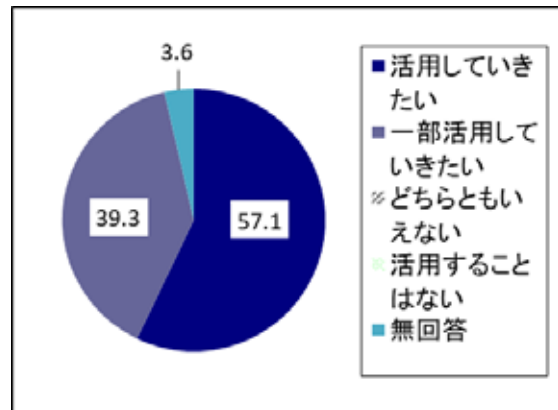
7. 総合評価 (講習会全体として)



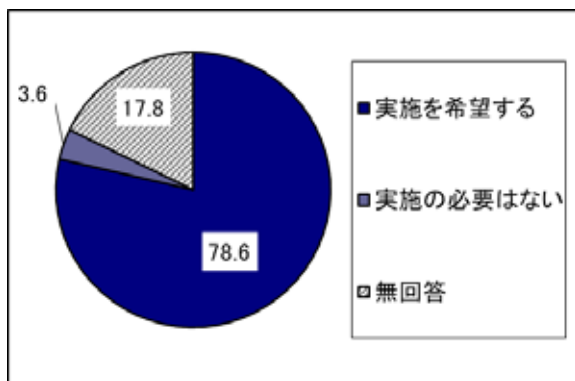
8. 講習会参加による意識の変化



9. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



10. 来年度の開催について



設問6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 地域の状況に即した交通安全活動の実態
- ・ 行政、警察、学校、地域の一体化の推進
- ・ 疎遠社会への対応策について
- ・ 参加者自身が交通安全ルールを学びたい
- ・ 交通安全教室の現状や今後の普及について
- ・ 交通安全についての実験映像や研究資料
- ・ 中学生の自転車の交通状況と特性
- ・ 高校生や大学生など若者の交通意識を高めるヒントになるもの
- ・ 中学生や高校生への指導方法
- ・ 幼児や高齢者への指導方法(実施報告等)

設問9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 団体、学校、企業等でレクチャーすることが必要。ボランティアについての必要な知識を学ぶ世代によるボランティアの捉え方の違いを理解することが重要
- ・ レクチャーを受ける場を設定。ボランティア活動の原点を知るための情報提供
- ・ 学年部会や育成会活動の中にも時々交通安全教育を取り入れるようアプローチしたらと思う
- ・ 「横のつながり」を保つのが最も必要だと思う。交通事故をゼロに近づけるにはこれが不可欠
- ・ 情報交換等
- ・ 安協やPTAの方達と今まで以上に密接にする
- ・ 講習会も大切だが自身が実際に体験することが重要(体験してわかることが多い)
- ・ 異業務の方の参加で活動を広めていくことが必要
- ・ 講習会を通じて参加者と交流を深め自分のスキルを高める機会があると良い
- ・ 交通指導員同士、日ごろの活動内容の情報交換ができる機会があれば良いと思う
- ・ 幼児から高齢者まで生活に基づく課題があるが、各組織の中で機会をつくり啓発活動につなげていきたい
- ・ 交通安全教室に参加し一緒に子どもと交通ルールやマナーを学ぶことも良い機会だと思う
- ・ 被害者の声を伝える機会を多くしてほしい。高齢ドライバーへの免許規制や免許取り消しについての警察の話

設問10. 講師への質問・意見等

山口直範先生

- ・ お話が少し早口のため聞き取りにくいところがありました(2)
- ・ 資料もわかりやすく大変参考になりました。活用していきたい
- ・ 子どもの特徴が良く理解できました
- ・ 子ども達へ交通安全についてしっかり教え込むこと

鈴木春男先生

- ・ 高齢ドライバーの悲惨な事故が続く中、鈴木先生の参加・体験型の交通安全教育をさらに広めて欲しい
- ・ 免許証返納した高齢者へのいろいろな対策をさらに進めてもらいたい
- ・ 免許返納について「条件付き免許証」は素晴らしいご意見だと思う
- ・ 高齢者の気持ちが少し理解できました

設問12. その他の意見・要望

- ・ 会場のマイク感度が悪く講師の話が聞きづらかった(2)
- ・ ボランティア保険を制度化して欲しい。グループ討議では「ボランティア」について深く考える良い機会となった
- ・ 講師が例年変わらないので新しい空気を入れて欲しい。後継者へのつなぎも検討して欲しいと感じた
- ・ 次世代への対応を推進していきたい
- ・ 私の知人の子は「生まれ」を止まらなかったため即死だった。「自分は大丈夫！という時代ではない」ことを全ての人に理解して欲しい
- ・ 参加している団体の活動内容を聞きたかった。各団体の高齢化が進んでいるので団体の必要性を内閣府が若い人にアピールして欲しい
- ・ 毎年、交通安全教室の講話内容を考えている。今回の参加内容を参考にしたい
- ・ 子どもの特性を知り、今後教室を行う上で大変参考になった
- ・ 災害のため参加者が少数で残念だった。もっと多くの参加県から活動を聞きたかった
- ・ 何よりも非常に熱心に交通安全に取り組む姿勢を学ばせてもらい大変刺激になった
- ・ 条件付き免許証の在り方は内閣府でも十分考慮して欲しい

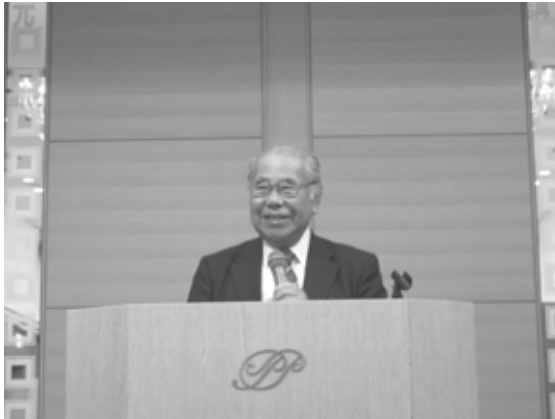
4 . 記録写真



開会挨拶（内閣府 石黒主査）



講演 山口直範先生



講演 鈴木春男先生



グループ討議



グループ討議



グループ討議発表